

1 優しい、2 使える、3 面白い！

ようこそ、韓国語 = 朝鮮語の新たな世界へ

1 優しく、易しい韓国語

●韓国語を学ぶ私たちにとって、韓国語はとても優しく、易しい言語です。なぜ？ それは韓国語が、世界に数千あると言われる言語のうちで、日本語に最もよく似ているからです。何が似ている？ 何よりも文法的な仕組みが日本語にそっくりです。語順は日本語とほとんど同じ。「…は」「…が」「…を」「…に」など、「てにをは」と言われる助詞がある点も、そっくりです：

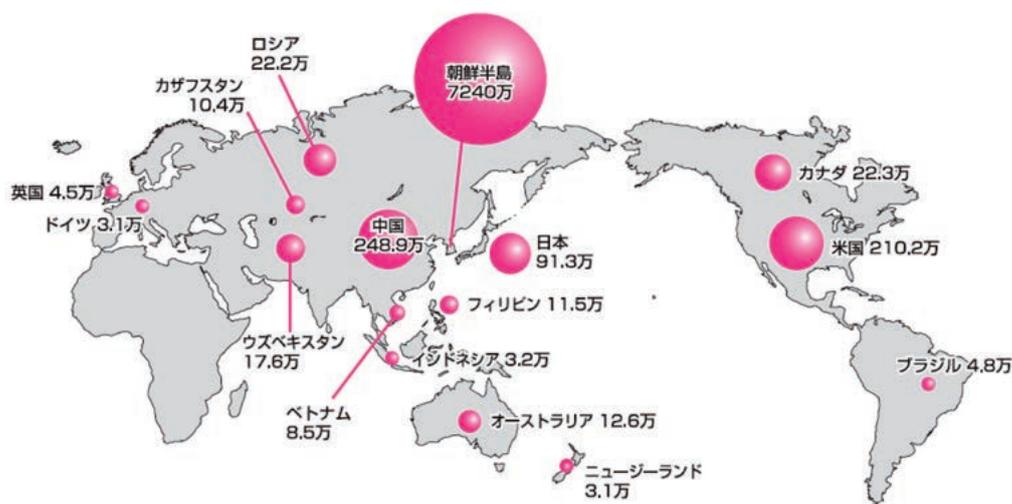
저	는	한국어	를	공부	해요
チョ	ヌン	ハングゴ	ルル	コンブ	ヘヨ
私	は	韓国語	を	勉強	します

最初の「チョ」が「私」、「ヌン」が「…は」という助詞です。「ハングゴ」は「韓国語」、「ルル」が「…を」にあたる助詞。ですから「私を」なら「チョ」(私)に「ルル」(…を)をつけて「チョルル」と言えばいい！日本語のように語順をひっくり返して、「コンブヘヨ、ハングゴルル」(勉強します、韓国語を。)のようにも言えます。主語は日本語と同様、必要な時だけ言えばOK。助詞をとってしまって、「ハングゴ、コンブヘヨ！」(韓国語、勉強します！)なんていうのもあり。

どうでしょう。そういう訳で、日本語を知っている学習者にとって、韓国語は、とても易しい、そして、学ぶ私たちに優しい言語なのです。

2 ほんとに使える韓国語

●せっかく学んだのに、実際に使う機会がなかなかないのでは？ 心配は無用です。世界に数多ある言語のうち、韓国語は日本にいながら実際に話すという体験をすることができる、稀有なる言語です。そもそも今は日本と韓国の間は1日に2万人近くが往来しています。明治学院大学のキャンパスはもちろん、東京や横浜の街で、公園で、カフェで、駅で、電車の中で、韓国語は日常の中に聞こえてきます。もちろん韓国語はドラマや映画やK-popの中にもあります。のみならず、皆さんと共に暮らす、すぐお隣の人が話していることばなのです。皆さんが「アンニョンハセヨ」（こんにちは）と語りかけたら、きっと笑顔と共に「アンニョンハセヨ」ということばが返って来でしょう。ひとこと学んだら、そのひとことは実際に心を通わせ得る、ひとことなのです。



朝鮮語＝韓国語話者の広がり
2010年韓国外交通商部の在外同胞統計をもとに作成

——野間秀樹・金珍娥・中島仁・須賀井義教『きらきら韓国語』（朝日出版社）より

●90万人以上の話し手を有する日本の中だけでなく、実は韓国語＝朝鮮語は、世界のいろいろなところで用いられています。朝鮮半島の7,200万以上の人々はもちろん、米国には210万の韓国語話者が存在し、ロサンゼルスだけでも100万人を数えると言われます。中国には約250万の朝鮮族が住み、延辺朝鮮族自治州という行政単位も置かれています。ロサンゼルス、ニューヨーク、バンクーバー、そして東京や大阪などのコリア・タウンも有名ですね。英語圏に留学に行って、英語だけでなく、韓国語で語り合える一生の友を得た、皆さんの先輩たちもたくさんいますよ！ 皆さんと韓国語との出会いは、今後拡大こそすれ、狭

まることは、もう決してありません。黙っていても、韓国語は「アンニョンハセヨ」と、向こうからやって来ます！

3 面白い韓国語 ——知的に、そして実践的に！

●韓国語を学んだ先輩たちが、口を揃えて語ってくれることが、「韓国語は面白い！」ということです。こんなふうに語ってくれています：

「明学で韓国語を学んで、ほんとうに良かった」

「この面白さを皆に知ってもらいたい。知らずに卒業するなんて、ありえない」

「韓国語を学んで、英語にも目覚めたし、自分の日本語にも目覚めた。言語って絶対面白い！毎日が知的な感動の日々。」

「ことばを知って、アジアの、そして日本の文化や歴史がほんとうに見えてきた。これまでわかったつもりで、全然わかっていなかった！もっと早く始めたかった」

「韓国語を選択し、韓国に短期留学に行ったことが、私の人生を変えた。」

「ことばをこんなに実践的に楽しく学べるほくらは、幸せだと思う。」

「ハングルは深い。そしてことばも深い。」



*韓国語で互いに語り合う、パーティ形式授業のスナップです。韓国式ののり巻きやトッポッキといった韓国の食べ物もコリア・タウンで入手。とにかく笑顔が絶えない時間です。

●面白いって、何がそんなに面白いのか？ 1つめは、韓国語を他ならぬ日本語話者が学ぶという面白さです。韓国語という言語自体が日本語とよく似ていながら、違う。そのことが学習者にとって日々、知的な面白さを誘発します。

2つめは、ハングルという文字。最初は記号にしか見えなかった文字が、もう読めるようになっている驚き。そして15世紀朝鮮王朝時代に創製されたハングルは、文字体系を創る原理や運用する原理が、これまた知的な興奮に満ちています。音で表されることばを、文字でいかに書くのか？ ハングルを見ると、漢字が見え、仮名が見え、ローマ字が見えてきます。



*ハングルは、子音や母音を表す字母を組み合わせて、1文字を造る。児童が遊びながら文字を楽しむ展示物。ソウルの国立ハングル博物館。

3つめは、言語を学ぶことによって、文化や歴史といったものが見えてくる面白さです。これは単に韓国語圏の文化や歴史だけではありません。他ならぬ、日本語圏の文化や歴史の中に、韓国語＝朝鮮語圏の文化や歴史が古くから深いところで交わり、解け合い、響き合っている、そうした面白さです。韓国語の学習は日本語圏の文化や歴史を全く新たな姿で、そして誠実に発見し直す営みでもあるのです。

4つめは、これまで体験したことのない、新たなことばの学びの面白さです。ええっ、言語はこんなふうに学ぶことができるのか！ そういった感動です。実際にできるようになるし、実際に使える面白さ。そこでは「単位のための授業」などといったちっぽけな考えが吹き飛ぶような、圧倒的なわくわく感を共にし得るでしょう。



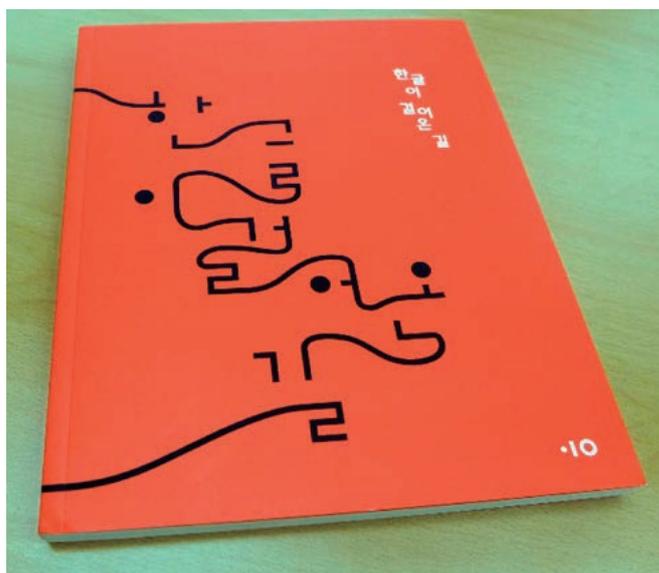
*『洪吉童伝』(ホン・ギルトン伝)。17世紀初頭にハンゲルで書かれた小説。活貧党を率い、王朝の支配を揺るがす主人公・洪吉童(ホン・ギルトン)、神出鬼没の大活躍。風を起こし、雲を操って、これぞ痛快無比。ソウルの国立ハンゲル博物館。

●実践的で、知的で、深い、ことばの学び。これが韓国語の学びです。教室で用いられている先進的な教科書群、そこにある、考え抜かれたことばたちは、教科書の中だけに閉じこもっていることばなのではありません。「これは本です。」(そんなこと言われなくても、見ればわかる)、「私は少年です。」(少年はそんなこと言わない!)などという、あまり使えない例文の暗記に、貴重な青春の時間を費やすなんていうのは、なし! 実際に話すには? 書くには? 聞き取れないときには、何と言えばいいのか? 韓国語で韓国語について尋ねるには? そういう構えで学びます。学んだそばから、実際に使えることば、ことばを交わして、実際に胸がうちふるえるような、そうした生きたことばを学びます。



*韓国語圏から発信される豊富なコンテンツは、日本語圏だけでなく、今や世界中の多くの人々の心に響き合っている。韓国語圏は世界のITを牽引する地域の1つでもある。

●15名ほどを数える韓国語話者の先生たち、そして教室で皆さんの学びを助けてくれる、韓国からやって来たティーチング・アシスタントの先輩たち。そして共に学ぶ仲間たち。そこではどんな姿勢で学ぶとよいのでしょうか。ことばの学びは、単なるお勉強ではありません。もちろん単なる機械的な暗記などではさらさらしない。国語、古文、漢文、英語など、言語の学習で泣いた人も、もちろん笑った人も、全く新しい姿勢で、ことばの学びを共にしましょう。言語を学ぶとは、ことばを学ぶとは、本当はいったいどういうことなのか？——ことばを問う。ことばが人と人をつなぎ、ことばが私たちにとって真に深いところに息づいていることを、共にする、そうした生きた、知的で深い学びを実践しましょう。ことばの1つ1つを大切に、日本語とも照らし合わせながら学びましょう。日本語とは何がどう似ていて、何が異なるのか？英語と比べるとどうか？自ら問い、自ら話し、自ら書く、そうした学びには様々なたくさんの発見があることでしょう。受身の姿勢ではなく、能動的にことばを考えて学び、実際の出会いの中で楽しく実践する。韓国語を学ぶと、韓国語をめぐる広大な世界に分け入り、全く新たな視点から自分自身の世界を広げることができます。そして日本語に最も近い言語である韓国語に触れることは、私たちが生きる日本語圏の言語、文化、歴史をさらに大きな視野から見つめ直す、素晴らしい機会となるでしょう。ここでは学ぶ喜びに、笑顔と感動が絶えることはありません。韓国語のクラス。新たな出会いが、待っています。



*ハングルのタイポグラフィ・デザイン。「ハングルが歩んできた道」と書かれた、展覧会の図録。

●さあ、圧倒的に楽しい韓国語を、志を分かち合える素晴らしい仲間たちと共にしましょう。この星の上で様々な言語、様々な文化を生きる私たちが、いま、真に〈共に在る〉ために。いざ、新しい学びを。キャンパスで、待っています。